

吸器症状を伴うものは、帰国者・接触者外来への受診調整を当該人に対し行われることとなっております。

報道等で御承知のとおり、抗ウイルス薬もないことから、市民の皆様一人一人の感染症予防の行動が大切でありますので、マスクの着用や室内では小まめな換気と咳エチケットの徹底、そして、十分な手洗いを励行し、予防に努めていただきますようお願い申し上げます。

以上でございます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（小川 廣康君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は5人を予定しております。

それでは、届け出順に発言を許します。5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 皆さん、おはようございます。会派つしまの小島徳重でございます。

質問に入ります前に、3月1日の市長選挙において圧倒的大差で見事再選を果たされました比田勝市長にお祝いを申し上げます。1期目の実績・課題を踏まえ、掲げられた公約実現のためリーダーシップを発揮され、活力ある豊かな島づくりが実現することを、3万島民が期待しております。心身の健康に留意され、市政運営に邁進されることを願っています。これまで以上に議会の提言、すなわち市民の声に真摯に耳を傾けていただきますよう切望し、質問に入ります。

本定例会では、私は4項目、8点の質問を通告していましたが、壱岐市で新型コロナウイルス感染者が確認されたことを受け、新型コロナウイルス感染防止に係る臨時休業措置の対応と、それに関連する事項に絞ってお尋ねします。

なお、今回取り下げた事項は、次の機会にお尋ねをしたいと考えております。

質問事項ですが、1項目め、学校におけるICT教育の充実についてお尋ねします。

小学生へのタブレット、1人1台配布はいつになるのか、お尋ねをいたします。

次、2項目め、新型コロナウイルス感染防止による臨時休業措置の対応についてお尋ねします。

休業中の児童生徒の学習指導、生活指導及び家庭・地域でのこどもたちの生活の安全確保について、対馬市教育委員会から学校への指示、指導などはどのようになされているか、お尋ねします。

以上、この2項目、2点に絞ってお尋ねをしました。よろしく御答弁をお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） おはようございます。小島議員の御質問にお答えします。

初めに、小学生への1人1台のタブレット配布でございますが、本市の現状といたしましては、

既に中学生では県下に先行して、平成30年度から1人1台、小学生につきましても学校の最大人数プラス分のタブレットを導入し、授業や校外活動での活用を図っており、児童生徒の学習活動の幅を広げる道具として、大きな教育効果を上げているところでございます。

議員御指摘の小学生への導入につきましては、文部科学省や県教育委員会からも実現の要請があることから、今後、取り組んでいかなければならないものと理解をしております。

今後の展望としましては、引き続きタブレットを効果的に活用するとともに、新たな学習支援サービスによる教材配信やドリル学習の導入によって、例えばこどもたちの基礎学力がこれだけ上がったとか、思考力や表現力が高まったとか、学習意欲が高まったなどの具体的な成果を明らかにし、その上で、小学生への1人1台の導入について検討していきたいと考えております。

次に、新型コロナウイルスへの対応についてでございますが、政府等の要請を受け、本市の全ての小中学校を3月2日から3月24日の間、臨時休業としております。ただし、卒業式及び浅海中学校閉校式につきましては、感染拡大防止、児童生徒の健康安全の確保を第一に考えた上で、予定どおりとすることとしております。

なお、対馬市教育委員会としましては、時々刻々と変化する国内情勢を鑑み、現在までに7回の通知を出しております。その中でも、児童生徒の安全確保につきましては、不要不急の外出を控えること、他との接触を極力控えること、体に異常が発生した場合は、速やかに学校に連絡すること、日課表を作成し、計画的に学習するよう指導すること、などを指導しているところでございます。

基本的には、児童生徒に対して電話によって生活状況や学習状況を把握し、必要に応じて家庭訪問をすることとしております。

なお、中学生につきましては、全員にタブレットを持ち帰らせております。学校によっては健康確認の道具として活用したり、課題の配布や提出に活用したりするなど、独自の工夫が見られ、ICTを活用した教育の可能性を感じているところでございます。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 御答弁ありがとうございました。ちょっと質問事項の順序が前後しますけども、コロナウイルス関係のほうから再度確認をしながらお尋ねもまたしたり、お願いしたりしたいと思います。

教育長おっしゃったように、政府からの要請が、これ唐突な感じの要請だったんですけども、あって、対馬市は早速2日から臨時休業の措置をとられたんですけど、これ短期間の間の、政府から県教委、県教委から市教委への通知の中でのことで、多分、教育長を初め教育委員会あるいは市長部局と連携をとりながらやったと思うんですが、決断されるのには大変な御苦労があった

ろうと思います。そのあたりのところを、教育長さんの立場で、短い時間での決断に至るまでのことで、心の中は葛藤があったと思うんですが、そのあたりのお話を少ししていただけたらと思います。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） やはり私としては、こどもたちの健康であるとか安全を第一に考えました。で、最悪の事態を想定しながら、最善の策を講じなければならないという使命のもとに、それ以前から、韓国での感染者の発生、それから福岡での感染者の発生、こういうところから来航する方がありますので、対馬市の中に感染が広まらないようにすることを第一に考えました。

で、国のほうから要請がある前に、学校現場に対しましては、第一報として2月27日に、コロナウイルスへの基本的な対応方針を各学校に指示をしまして、こどもたちであるとか、各家庭への指導をお願いしております。

そういう中で、国からの要請がありましたので、対馬市としては、もう国がいう3月2日から実施をしようということに決断をいたしました。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 対馬の場合は、今、教育長がおっしゃったように、相当、時点で多分韓国からの感染というのが怖いというのは、対馬市民これ共通の思いだったと思います。そういうことも加味されて決断されたわけで、そのことを決断そのものについては、これがそれなりの検討の中でされたということですから、受けとめたいと思います。

ただ、休業に入る期間です。このことについては、対馬市は2日から入ったわけですけども、そのことについて学校現場あるいは教育委員会そのものも準備というか、そのあたりは大変御苦労があったらと思うんです。そのあたりについては、これほかの自治体の場合、例をとりますと、即2日から入ったのは長与町と対馬市、そして諫早市が2日の午後からだったです。国からの要請の中にも、4日を限度としてというのがあったんです。そのあたりで少し選択の余地というか、弾力性はとれたのかなというのはあります。しかし、もうこれは今既に経過したことから、そのことについては、ここではもう話はやめたいと思います。

ただ、この弾力的な運用ができたという余地は幾らかあったということは踏まえながら、それは今後の取り扱いに関連して、そのあたりの含みを捉えながら話をしたいと思います。

それで、教育長さんも学校現場で仕事をされたわけですから、その決断をされた後、プラス、絶対防がなきゃいけないのは感染防止ということなんですが、そのことよって、休業することによってそれは防げるけども、学校現場でこどもたちあるいは先生方はどういうふうな感じになるのかなというのが、多分頭の奥底にあったと思うんです。そのあたりのイメージはどんな感じで

したか。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 学校現場にしても、保護者にしても、混乱をするだろうなというのは予想をしました。で、27日の夜でしたか、国のニュースを見て、私もびっくりしたんですけども、28日の朝、職場に行きまして、まずは、国がもう2日からの要請でありました。で、県からの指示はまだ朝の段階では来ておりませんでした。で、対馬市としてどうするかということを経済局内で相談をしまして、まずは、2日から臨時休業に入る形で進もうということで、文書を作成して、行政は文書で通知するんですけども、その前に、朝一番に各学校に、2日から臨時休業に入るつもりで準備をしてくれということを電話連絡をしまして、学校ではそういう準備をしてもらおう一方、私たちは事務局内で会議を持ちまして、もう学校教育課長が4枚にわたってその通知の文書の原案をつくってくれておりましたので、それをもとに協議をして、たしか昼ぐらいには通知の文書を各学校に送ったと思います。

で、朝、電話連絡をすることによって、早い取り組みができたというふうに捉えております。

で、他の市町が、長崎県は4日までに臨時休業に入るようにというふうなことが後で来ましたけれども、私たちは、そういう準備をしたといいますか、もう政府が言う前にコロナ感染対策についても、各学校に準備をするようには言っておりましたので、そういう部分で2日から臨時休業に入らせていただきました。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） よくわかりました。

それで、やはり今回は全国的に一斉にやったことによって、やはり教育委員会なり学校現場の状況というのは、国の段階ではそこまでなかなか想定がいかない中での歩き出しだったと思うんです。国も走りながらの施策だということだったように、そのとおりであったと思うんです。

その中で、私も、恐らく教育長さんの中には学校現場で子どもたちがどうなるんだろうかなということが一番先に頭に浮かべられたということですが、具体的に、私がお尋ねしたように、学習面、それから生活面、安全面、そのあたりのことについて、教育長さん、どういうイメージを持たれましたか。休業措置をとった場合です。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 中学校はそのタブレットがあるということで、学習面であるとか、生活面についても把握がしやすいなというのは思いました。で、小学校にとってどうかなということで、できれば小学校6年生にはタブレットを持たして、持ち帰らせていただきたい旨もお願いはしました。で、タブレット等がない学年もありますので、あとは電話連絡であるとか、家庭訪問であるとか、こういうことをやりながら、子どもたちの学習面であるとか、生活面の指導をお

願いしてきました。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 私も、これ休業に入るといふときに、これは対馬だけじゃないですけど、全国的なことを考えたとき、まず一つは、こどもたちの生活がこれ非日常的な場になりますよね。日常は学校に行く、週末は家庭で過ごす。あるいは、長期休業は長期休業でこれは年間のスケジュールの中で、こどもたちも家庭もそういう生活のイメージができていますけど、急にこうなった場合に、こどもたちの生活の乱れというのが一番私は浮かんできました。その中でも特に今、学校からの課題が的確に与えられて課題はこなすと。しかし、その時間というのはある程度の時間しか、こどもたちは自分たちで生活をコントロールして生活をするというのは限られた時間だと思うんです。残りの時間どうなるかといったときに、今のこどもたちの実態を見たときに、ゲーム機、それから、中学生から高校生あたりはスマホです。このあたりでの時間がすごく多くなるんじゃないかなと。そして、二、三日ならいいけども、これが4週間、5週間続いたら、生活の乱れからこどもたちのいわゆるストレス、こういうことがたまっていって、あるいは、家庭の中での過ごし方というのは大きな課題を抱えるんじゃないかなと思ったんですが、そのあたりは、教育長はイメージとしてはどんなでしたか。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 日常とは確かに違う。例えば夏季休業あたりとも全然性質が違ってくと思うんですけども、今言われるように、いろんなそういう部分は想定はされました。しかし、そういう問題行動等よりも、当初申しましたように、感染することを恐れましてし、やはりこどもたちを守りたいという、こどもたちの健康、安全を守りたいということのほうを優先させていただきます。

で、学校からとか、各家庭から、保護者から多分苦情が来るだろうな。臨時休業することが先走って、対応策を十分に練れない状況のまま走り出しましたので、そういうことも予想はしたわけですけども、幸いにして、ほとんど苦情というものは上がってきておりません。対馬の保護者または家庭の御理解に感謝を今しているところです。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 今、教育長がおっしゃたように、これはやっぱり教育委員会が7回にわたって指導通知を出した。それから学校現場も、それぞれの学校現場において努力されたということだと思います。

その1点として、こういう新聞報道がなされました。これは長崎新聞が1面のトップ記事で報道しました。これは、主に取材先が厳原中学校という具体的な校名となっています。こういうふ

うにして学校の危機管理といいますか、それがすぐ対応を打ち出したところでは、これは校長先生のリーダーシップだろうと思います。また、それを進めるのには、教頭先生以下職員が一丸となってすぐに対応して、タブレットを活用して子どもたちに指示を出す。そして、添削までする。これは対馬市が日ごろ取り組んでいることがすぐ、そういう危機管理というか、非常の状態のときにそういうことができるということは、私も現場に敬意を表したいと思いますし、そしてまた、これはマスコミを通じてこういう情報発信がされていたということは、保護者も安心するんです。ああ、学校は頑張ってくれているんだなど。先生方は信頼に値するなどということなのです。

そしたら、この報道を追ってNHKテレビがまた放送をしました。このことをもって。そして、ああ、対馬の危機管理というのは、教育委員会は頑張っているんだなどということを見た私たちも安心をしたわけです。

その中で、保護者への呼びかけです。これは直接文書等で出されたと思いますが、そのあたりはどうされたんですか。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 今説明がありました長崎新聞であるとか、NHKであるとか、さらに文科省のほうからも、文科省の広報紙の中にも対馬の学校が紹介をされております。

で、その文科省の広報紙の中には、ある学校の取り組みとして、毎朝決まった時間に健康観察をやって、健康な場合には青のカード、で、体調が不良の場合には赤のカードを毎朝送信する。それによって学校はチェックして、子どもたちの指導をしていくというふうなことができっておりますし、1週間の時間割をもとに、毎時間課題を学校から子どもたちに発信をしながら、それを子どもたちが回答したものを送り返してくる。それをまた点検をして生徒に返していくということで、タブレットの活用に関しては非常に有効な活用ができているなどというふうに捉えております。

保護者に対しては、各学校からそれぞれ文書等を通じてお願いをさせていただいているという状況です。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） ありがとうございます。文科省のほうまでそういうふうに取り上げていただいたということは、大変光栄なことだと思います。

それで、学校から保護者へは文書等でとか、あるいは、いろんな形で伝わったということですが、できれば、初めの段階で市教委からもやはり有線テレビなり、何かで、やっぱりこういうふうな措置をとりますよと。だから、ぜひ子どもたちの生活を守ってくださいよということの周知をしていただけたら、なおよかったんじゃないかなというふうに思います。

それで、経過、流れと、それから市教委や学校の取り組みには敬意を表して、その先に話を少

し進めたいと思います。

で、これから、卒業式はきょう中学校がやっているわけですが、修了式、それから離任式です。このことについては、きのう私も市教委に電話で聞いたら、23日までに特段感染等がなければ実施する予定だということですが、このことについて、教育長、少し説明をしてみてください。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 2月の28日の段階で、そこから一、二週間がピークだと言われていたと思います。で、2週間後、3月の2日から2週間後ということで、3月の16日を一つの判断をする日というふうに捉えておりました。そこまでに対馬の中で感染者が出ない場合には、3月24日の修了式及び離任式については、臨時登校日としようということに計画をしておりました。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 今、答弁がありましたけど、ぜひ修了式についても何らか、縮小の形とかいろんなやり方があると思いますけど、実施していただけるような、感染者が出ないことが大前提ですから、そう願いつつ、ぜひ行っていただきたいなと思います。

私は、やっぱりこの休業措置に入るときに思ったのが、この2月末あるいは3月にかけての時期は、学校にとっては、いわゆる節目の時期です。この節目の時期というのは、学習面では子どもたちが学習の1年間の総まとめをして、次の学年へのまた士気を高めるというそういう大事な時期です。

それとともに、人間的なつながりという意味では、やはり卒業式あるいは修了式、離任式、このことを通じて子どもたち同士のつながり、それから子どもたちと先生方のつながり、このことによつてすごく大きく成長する時期だと思うんです。そういう意味では、ぜひ今とられている措置が、考えてあることが実現することを期待をしておきたいと思います。

もう一つ、先に今度はいきたいと思いますが、春休みのことについて考えていただきたいと思うんです。ここに今パネルを、新聞記事を出していますけど、友達と過ごしたいと。これが新聞記事の見出しですけど、臨時登校を決めた自治体もあるということで、臨時登校をこの期間までの間で、県内でも長与とか、長崎市とかが2日とか、3日とか行っています。

で、そのことが、対馬市は今の対応としては、すぐにはできないと思いますが、やっぱり子どもたちは家の中でじっとというか、いろんな活動をするけれども、人と会うこと、特に小学生は友達と会いたい。それから中学生は特に体を動かしたいと。体を動かすことはとまっぴいなんですけど、なかなか一人では思うようにできないです。

そういう意味で、春休み中の学校に足を運ぶような機会の設定、それから、中学生ならば、休業中でも部活はできますよね。そのことについての判断、考えはないかどうか、教育長にお尋ねをしたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） まさにそこが新たな私の悩みでした。春休み中、このまま対馬の中で感染者が出なければ、春休み中の部活動であるとか、社会体育、これを外で行うとか、例えば広い体育館で行うから、密集状態、密閉状態ではないと、そういう状況の中で、春休みは、部活動であるとか、社会体育を認めてやらなければ、子どもたちもかわいそうだなとも思ったりしております。

また、4月6日から新年度が始まりますけれども、ここが果たして正常にスタートできるのかどうか、今、ここらあたりが私の悩みです。悩みながら、来週頭ぐらいには方向性を示していかなければいけないというふうには考えております。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 今、具体的に教育長からそういうお話がありましたけど、特に中学校の部活動、それから小学校の社会体育です。このこととか、あるいは小学生の低学年でも、やっぱり学校に行って友達と会いたいとか、そういう場の設定については、ぜひお考えください。

具体的な例を一つ申し上げておきますと、今、関西圏が感染者が広がっています。今一番状態が悪くなってきていますけど、大阪市は、春休み中の中学生の部活動は実施するというを決めてある。これは教育長は多分情報を持ってあると思います。

そういう中で、対馬の学校の場合は小規模の学校が圧倒的に多いじゃないですか。そういう中で、室内でやる部活動は別にして、戸外でやる活動というのは、ぜひそういうお考えを実現できるようにしていただきたいと。

そしてまた、新学期の学校の再開です。このことについても、北海道の千歳市の例を、私ちょっと見てみたら、ここは卒業式の取り扱いも、一部の大きい学校は別にして、小規模の学校は北海道で最後実施しています。対馬の場合は小規模なんで、そのあたりはやりやすいと思いますので、再開についても感染者が出ていない場合は、また教育長、これは判断ですから、そこは御判断をされるときに、ぜひ考慮いただきながらお願いをしたいと思います。

で、一応休業措置に係ることでは、今いろいろなことを委員会も取り組んでありますということですが、いい具体的な例は教育委員会が把握されていたら、把握されていることをほかの学校にもやっぱり伝播するというか、広がるというんですか、そういうことをやっぱり今後もぜひとっていただきたいなということを一応要望して、この休業措置関係は終わりたいと思います。

次に、小学生への1人1台のタブレットということについては、今、教育長から答弁がありま

したけども、今後検討していくということで、具体的な、前、私の質問はいつからということ文言を入れてお尋ねしとったと思いますが、そのことについては、ここでは言明がなかったんですが、大体今までの中学校の取り組みは高く評価された。全国でも評価されたわけですから、教育長も小学校の5、6年だけでもせめて1台持たせて休業に入りたかったということをおっしゃったんですが、ぜひ小学生にも1人1台というのを実現していただきたいんです。

それで、これ今までの答弁がありますので、そのあたり教育長は当然振り返られたと思いますが、それで、そのことについてはこういうふうに述べてありますので、一応確認のために私も読み上げさせていただきます。

29年の12月の定例会でこういう答弁があっています。私は小学生にも1人1台をぜひ入れてくださいよといった、そのことについての答弁です。「今後は中学生1人1台の導入により効果を十分検証した上で、小学校への導入拡大の妥当性についても検討してまいりたい」と、こう答えてられてある。これは2年半近く前ですから、年度としては2年前です。これ2年間中学校で実施したんです。実績検証できていると思うんです。ぜひこれ小学生にも1人1台というのを考えたいと思いますが、再度伺いますけど、いかがですか。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 今回の臨時休業で特にこのタブレット、ICTの効果、効果的な活用というのは物すごく大きかったと思います。で、私もその2年前の議会で答弁をしたときには、成果がどうなのか。いろいろあれば便利ですけども、やはり高い予算をかけて導入をしているわけですから、学習効果が本当に上がっているのかどうか、ここの検証をしなければならないというふうに考えています。

で、その効果を確認するための教材を来年度導入します。（発言する者あり）そうそう、新年度です。その教材を使うといろんなデータが得られますので、そのデータをもとに検証をしていきたいなというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 教育長、大変苦しいというか、答弁ですけど、この中学校に1人1台入れるときに、もう検証を含めてこのとき答弁していただいているんです。だから、この2年間で当然そのあたりの検証をしていただいているはずなんです。そして、それを踏まえて、せめて小学校も1人1台というのを実現していただければ。

特に私が小学校1人1台と言ったのは、島の学校の半分以上が複式を抱えていますよ。複式はこのタブレットがすごく効果的ですよということは、これはもうわかってあるわけです。で、このときの答弁ずっと読み返したり、教育委員会の中の会議を読み返してみますと、財政的なことがネックになっていると。小学生1人1台入れると、中学生に今まで入れた額とまた同額ぐら

い予算が必要だから、今回は中学校を先行しますよという答弁だったんです。

そういうことで、今度ぜひ検証を急いでいただいて、新しい機器を入れるということですから、それを入れていただいた上で急いでいただきたいなと思います。

これ、次、市長にお尋ねをしたいと思うんです。このことについては市長にも通告をお願いしておりましたので。

それで、市長、今回の市長選挙における公約の中の豊かな島づくりへの重点施策というところの一番下のところに、対馬を自慢できる教材に満ちたこどもの育成というのが大きな見出しで、次、小見出しで、ICT教育の拡充による小規模学級の充実というのがございます。

で、この小規模学校を充実というのは、対馬は全体が小規模なんですけど、特に、今さっき申し上げたように、小学校は複式をたくさん抱えています。そのことについて、市長、ぜひやっぱり財政的なことが前回もネックになったんですけど、御判断をいただきたいなと思いますが、いかがですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私も、このたびの長崎新聞の記事を見たときには、大変効果が出てよかったなということで、私自身も大変喜んだところでございます。

そういう中で、今、小学生のほうにもタブレットを配布したらどうかということで、これも以前から御質問もいただいているところでございます。このことにつきまして、また教育委員会のほうとじっくりと話をしていきたいとは思っておりますけども、ただし、私いろいろ考えてみるときに、小学生のほうにもタブレットの導入は必要だとは考えてはおりますけども、ただ、小学校の1年生、2年生、こういった学年、まだ今ちょうど字を覚えているときに、そのタブレットがどうなのかなど。ここは私も非常に今悩んでいるところでございますので、こういう件につきましては、また学校の先生そしてまた教育委員会の皆様と十分話をした上で決定をしたい、判断をしたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 小学校低学年における文字学習です。書くことの重要性、これは市長、前もそういうお話をしてくださいましたけども、確かにそれはあります。もう全時間このタブレットを使うわけじゃないわけで、その点については、先生方も十分、教育委員会もわかってありますよね。

だから、そのことの留意は置くとして、効果というそのものは市長も認められているわけです。だから、ぜひこのあたりは教育委員会が検証をされた上で、財政的な裏づけということになると、ぜひ市長に御決断をいただきたいというふうに考えております。

それで、市長、小学校のほうでプログラミング学習というのが、ことしから始まるということ

は御存じですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 申しわけございませんけど、ちょっと私もまだそこは理解しておりません。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） なら、また教育長に返ります。

教育長、小学校でもプログラミング学習が今年度から入りますね。それで、そうなったときに、これ5、6年がプログラミング学習だけかと思ったら、英語は5、6年が教科になったけど、プログラミングはずっと下の学年も入るわけです。そのときに、やっぱり今の最大人数1人1台では、小学校を回らなくなる。教科でも使えるプログラミング学習をしないといけない。総合でもなったとき、やはり最大人数の1学級使ったら、残りの学級は使えないという状況では、先生方はもう調整するのに時間がかかりますよ。今週のどの時間には何年生が使う、どの学級が使うということをしよったら、計画を立てにくいです。やっぱり子どもたち1人1台持っておけば、担任の先生、指導する先生が自由に計画が組みやすい。時間割設定、活用の時間をするとということですが、そのことについてはいかがですか。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） その部分は十分、言われることはわかります。だから、あるにこしたことはないと思っております。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） あるにこしたことはないわけですから、ぜひ早い時期に小学校にも1台入れていただくということで、お願いをします。

それから、私、学校の先生方に話を聞く中で、ICT教育をさらに充実させるために、学校現場から教育委員会のほうに、校長会を通じて何か要望が出ているのでしょうか、それはいかがですか。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 学校代表者等うちの担当との会議の中で、そういうものは出ているとは聞いておりますが、中身については私も今把握をしておりません。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） たしか校長会の教研の部会が中心になって現場の声をまとめられて、教育委員会に2月のうち届けられるというふうに聞きました。

で、私、内容を聞かせてもらおうかと思ったら、校長先生方も自分の上司は教育委員会だから、教育委員会に出さないうちは内容は言えませんが、おっしゃいましたけども、この1人1台のこと

が含まれているかどうか、私もそこまでは把握はしておりません。ただ、いろんな条件整備ということで、かなり具体的な要望がされるというふうに聞いていますので、出たら、ぜひ私たちにもどういった内容が出ているか知らせていただきたいなど。それによって、私たちもまた議会で取り上げて、また市長部局にもいろんな議論をしていただきたいなと思っています。

それで、市長、こういう組織があるんです。全国ICT教育首長協議会というのがあるんです。首長協議会というの。これについても、市長、どうですか。そんな組織があることを御存じですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） たしか全国市長会の中にそういった組織があることは、ちょっと会報等で見てはありましたけども、実際、そこにはまだ私も出席はしていません。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） 今度、文部省がまず取り上げていただいたし、市長も大いに胸を張ってその会議に出れると思いますから、全国ICT教育首長協議会という組織がありますので、ぜひ関心を持っていただいて、できれば加入していただいて、島のICT教育の充実をさらに進めていただきたいと思います。

そういうことで、これはやはり環境整備には総合教育会議が重要な機能を果たすと思うんです。で、総合教育会議でこのICT関係の活用について話題になったことがございますでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 話題になったとは思いますがけれども、どういう内容であったかは定かではありません。

○議長（小川 廣康君） 5番、小島徳重君。

○議員（5番 小島 徳重君） ぜひ、また総合教育会議の中でそういう話題を取り上げていただく。そのためには、教育委員会のほうで十分資料をそろえていただいて、市長部局と十分な連携をとっていただきたいということをお願いをして、終わりたいと思います。

私はいつも時間ぎりぎりいっぱいやって、議長から計画的にやってくださいと言われてますけれど、初めて4分残して終わりたいと思います。

以上です。

○議長（小川 廣康君） これで、小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩します。再開を11時10分からといたします。

午前10時55分休憩